

## スタッフ便り

私は中国西北部の内陸にある小さな街——天水の出身です。そこでは山から吹く風が乾いていて、黄土と麦畑の色はとても純粋で、まるで幼少期に素朴で確かな下地を敷いてくれたようでした。幼い頃から遠い場所に憧れ、未知を探ってみることが好きでした。幸いにも家族の支えと励ましを得て、1,350kmを越え、上海・黄浦江のほとりで学部時代を過ごしました。その後もまた幸運に恵まれ、日本へ渡り、富山では立山連峰の麓で大学院教育の洗礼を受けました。そして今、仙台が私の新たな座標となりました。

ここには「杜の都」のやわらかさがあり、同時に研究都市としての張りもあります。商店街の人声の中を歩いても、角を曲がれば静かなキャンパスに出会える。広瀬川沿いを少し歩くだけで、心が自然とほだけていきます。最近、同僚の皆様からセンターの大規模計算や防災・減災に関わる取り組みについて伺う中で、とりわけ実感したのは——「計算」は論文の指標にとどまらず、いざという時に社会を支える底力になり得る、ということでした。この実感は、今後の研究への確信も強めてくれました。私は人工知能(AI)を中心に研究しており、大規模計算基盤を活用しながら、AIをより堅牢で信頼できるものへと磨き上げ、現実の科学的課題や社会的ニーズにより近い形で貢献していきたいと考えています。

趣味は幅広く、スポーツ、歌、写真、旅行、そしてコンピュータゲームです。私にとって、これらの体験は脳にさまざまな「特徴量の次元」を増やすようなものです。見た風景、出会った人、負けた一局、走り切った一つの区間——それらがある瞬間、そっと新しいアイデアへと変わることがあります。仙台でも、こうした方法で街を知っていきたくと思っています。レンズで季節を記録し、自分の足で街を歩いて確かめ、そして少しだけ芸術的な感性を添えて、研究の成果に温度と美しさを加えられたらと思います。

私は富山大学から参りました、令和7年10月1日付けで着任した陶思晨と申します。着任以来、皆様からさまざまなご配慮をいただき、心より感謝しております。できるだけ早く成長し、着実に歩みを進め、皆様のお力になれるよう努めるとともに、研究を通じて社会に貢献してまいります。今後ともどうぞよろしく願いいたします(陶思晨)。

年末に九州地方(福岡・長崎・熊本)へ旅行に行ってきました。福岡県以外の2県を訪れるのは初めてでしたが、どこも再訪したいと感じるほど素敵な場所でした。長崎県へは熊本港からフェリーで向かい、島原港に約60分で到着しました。天候に恵まれたこともあり、フェリー前方の窓越しに望む雲仙普賢岳は絶景でした。夜はホテル近くの居酒屋に行きましたが、そこでいただいた「ハトシ」がとても美味しかったです。店員さんに聞いたところ、ハトシとはエビのすり身を食パンで挟み、油で揚げた長崎県の郷土料理とのことでした。

中国語(広東語)が語源で、蝦(ハー):エビ+多士(トシー):トーストで、「ハトシ(蝦多士)」と呼ばれるそうです。

最終日は熊本県の阿蘇へ向かい、阿蘇全体を周遊するコースを楽しみました。

大観峰から望む朝日、草千里ヶ原でのハイキング、そしてヘリコプターから見下ろす阿蘇中岳火口などどれも圧倒されるほどの迫力でした。

今回、北の東北から南の九州へ移動しましたが、九州は雪もなく秋のような暖かさで、非常に過ごし

やすかったです（東北住まいとしては羨ましい限りです）。

皆さんもぜひ訪れてみてください。本年もどうぞよろしく願いいたします。（R.F）

【サイバーサイエンスセンタースタッフ異動のお知らせ】

2025. 10. 1 付け

[着任]

陶 思晨 スーパーコンピューティング研究部 特任助教



SENAC 編集部会

滝沢寛之 水木敬明 後藤英昭 河合直聡  
今野義則 佐々木明里 大泉健治 小野 敏  
斉藤くみ子

2026年1月発行  
編集・発行 東北大学  
サイバーサイエンスセンター  
仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
郵便番号 980-8578  
PDF 作成 株式会社 東誠社